



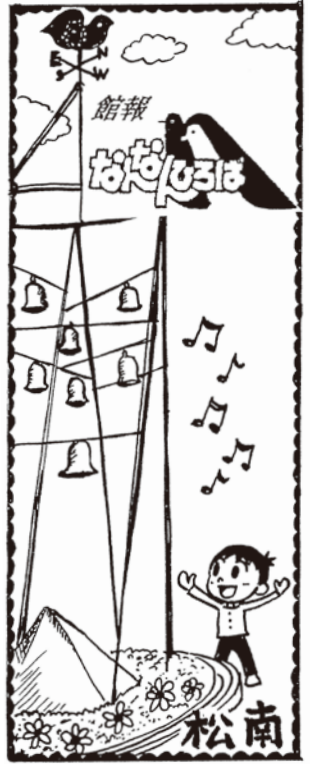
●11月24日、車窓の千曲川河川敷には長芋畑を軽トラックが復旧に走り、降り立った城址にも氾濫の痕跡が残り、苦渋が偲ばれる松代でした。こんな時だからこそと言われても、気が咎める旅の始まりでした。

しかし、ガイドさんの熱心な説明に、学びの姿勢を正されました。地下壕について戦時下の背景を基に語られるAさんには、反戦の信念が滲みましました。また真田家の盛衰や城下の歴史を語る古老のBさん、まるで藩士の風貌でした。いずれも松代の魂の語り部ともいえるべき矜持をもち、地域の非常時に踏ん張る姿に敬服しました。Aさんの話は、次のとおりです。

松代大本営移転計画は、昭和19年、東条英機内閣で決定。陸軍省管轄で11月から施工されました。内陸部の強固な岩盤のシエルトを本部に、本土決戦に備えるためです。軍専用倉庫の建設が名目で、徹底した箱口令が布かれました。



平和をつなぐ 松代視察研修報告



具体的には舞鶴山には皇居や大本営が、象山には諸官庁や日本放送協会などが、また皆神山には食糧庫などを掘削する計画です。

作業は西松組と鹿島組の請負下で、約六千人（敗戦時に書類が焼却処分され不正確）の朝鮮人労働者が主力で、住民の一部も勤労報国隊として従事しました。当事者の崔さん（故人）によれば、危険と苛酷、死と瀬戸際の強制労働だったといえます。賃金は支払われなかったが、請負が重なるため中間搾取は想定されるそうです。とはいえ、それ故か、韓国での徴用工訴訟には含まれていない、とのこと。また周辺地域も道路や飯場建設で一方的な立ち退きを命じられ、舞鶴山の西条村には、慰安所も設置されました。

一般公開は象山壕（総延長6km、8割完成）の500m部分です。見学者用の電灯はあっても、文字通りの空洞が縦横に交差しています。刺さった削岩機用のロッドが



岩盤の硬さを語っています。昭和20年、3月には東京大空襲と米軍の沖繩上陸。戦局悪化の6月、御前会議は「戦争を完遂し、国体護持（天皇制維持）する」方針を決定。視察した陸相から大本営の進捗状況を打電された沖繩戦の牛島司令官は、2日後、徹底抗戦を命じたまま、自刃。その後も沖繩戦が惨状を極めたことは周知のとおりです。まさに沖繩は本土決戦のための「捨て石」でした。なおも国体護持を探る2月、広島・長崎への原爆投下とソ連参戦という事態を招いたのです。まさにオキナワ、ヒロシマ、ナガサキの陰にマツシロが伏せていたのです。国家は命を顧みなかったのです。

令和になり、即位の諸儀礼も華やかに進行しました。平成天皇は弱者に寄り添う姿勢を鮮明にし、昭和をも背負い、戦禍に苦しんだ人々への共感も大切にされてきました。今上天皇もその意思を踏襲すると表明されました。では、我々はどうぞでしょう。平和は、祈りでは実現できません。主権者として、歴史を直視し、平和を守

り育てる意思が問われています。（白澤幸男）

●さて、松代がそのような状況の時代、私達松南地区ではどのようなであったか、まさに戦争そのものの地区でありました。

国鉄南松本駅を基地に、南松本二丁目の地に「日本ステルス」、双葉南・西には「宮田製作所」、隣の石芝・高宮地区には「芝浦製作所」と軍需産業の基地と言ってもよい地区でありました。

特に軍用機のエンジン、機体の部品製作が中心で、筑摩から山辺に広がっていた富士電機との関連。何より松本は歩兵50連隊があり、重要な軍の武器製造基地でありました。今ではその影響とも言うべく寺社、仏閣の様な史跡、歴史構造物が何一つ残っていない、松南地区の悲しい歴史です。（百瀬 壽）

令和になり、即位の諸儀礼も華やかに進行しました。平成天皇は弱者に寄り添う姿勢を鮮明にし、昭和をも背負い、戦禍に苦しんだ人々への共感も大切にされてきました。今上天皇もその意思を踏襲すると表明されました。では、我々はどうぞでしょう。平和は、祈りでは実現できません。主権者として、歴史を直視し、平和を守



軍需工場宮田製作所宅の煙突

宮田西町会の文化祭

11月23日・24日に、第28回宮田西文化祭が、宮田西公民館で開催されました。



日頃から、丹精込めて作成した盆栽、趣味の陶芸、手芸品、絵画、書道、竹細工、編み物、アルミ缶・ペットボトルで作った風車、写真などの作品が展示されていました。



竹トンボは子ども達には人気で、大人の真似をして飛ばしていました。子どもの絵も展示されており、多くの人が足を止めていました。



23日には、新そば打ち体験もあり賑やかで楽しく参加していました。宇梶博人さんの指導で、そば打ちの3原則①挽き立て②打ち立て③茹で立てを学びながらの手打ちそばの味は格別であったと、満足していました。

昔ながらの、「綿あめ」もあつた文化祭でした。

(塩原保彦)



社協健康まつり

松南地区社会福祉協議会主催の「第7回健康まつり松南」が、11月17日(日)に開催されました。

小運動会として8種類の競技が用意され、未就学児、小学生、一般、役員が選手・補助員となり盛り上がりしました。

皮切りにパン食い競争が行われ、大きな口を開けてパンに食らいつく人と悪戦苦闘の末素手でパンを口に入れる人、それぞれが必死の形相です。次は未就学児の宝さがし、目を輝かせ取ろうとする子、大人の助けを借りる子、どの動きにも優しい眼差しが…。

地区ならではの松南検定クイズは全員参加での挑戦。人口の多い町会や高齢化率の高い町会は？等々。思った程結果が出ず地区の実情を再認識させられたゲームでした。

バランスを保とうと緊張の面持ちで競いあつたピンポン玉リレー。そして小学生の紐結びゲームは、箱の中から引いた長短の紐が勝敗を左右するのは勿論だが、速く上手に結ぶ事が出来ず手間取る子もあり、つつい補助員が手伝

うという場面もありました。

昨年全国的に話題になった松本走りは、障害物の間を左右に避け駆け抜けるものでした。その狙いは機敏さと身の熟しを養うだけでなく、常に交通安全を心がけようと呼びかけでもあつた様です。

最後の大綱引きでは老若男女が紅白に分かれ一緒に力一杯引く様は圧巻で一体感が生まれ、正に「ワンチーム」となりました。

今年、役員や育成会の方々の呼びかけで参加者も増え、種目も新しい内容を取り入れる等、マンネリ化改善の工夫も感じられました。この健康まつりは地区の住民が集い、身体を動かすことを通して、まとまりを生み、地域の活性化や健康増進に繋がるものであると思います。

(児嶋正武・岡田 實)



コラム松南

松南マレットゴルフ倶楽部の活動

それぞれの町会で活動するマレットの皆が集まり、一緒にプレーをする事で、自身の健康づくりを楽しもうと毎月活動しております。

日々交流する中から、月に1回マレット交流居酒屋公民館をやるうと話題が提供され、芳野町公民館・双葉町公民館で月替わりに開催し、スポーツだけでなく公民館を使って多目的な健康づくり(褒賞授受あり、マレット会議あり、カラオケあり、ビンゴあり、等)一人一品を持ち寄った交流居酒屋を楽しんでおります。

皆さんの色々なエピソードが飛び出して、大笑いし(本人は大泣きかも)笑顔の絶えない2時間を過ごしています。

令和2年からは、マレット交流居酒屋公民館を3時間枠に拡大した内容にして、もっと多くの方が参集し、健康づくり活動を楽しめる倶楽部運営にし、実施していきたいと思っております。

念頭にあたり、皆様の健勝をお祈りすると共に、一緒に歩めることを願っています。

(運営幹事会 大澤孝昭)